保守

コマーシャリズムに塗りたくられた平和が
重い足取りで唾を吐きながら夢見るものは

およそ爪先に広がる社会とは似ても似つかぬ混沌(カオス)

酒でも入らねば進むに重苦しく
頭痛でもしなければ考えるに辛い
何故そんなものを夢見ることか

重いコートの胸元かき寄せて
庶民という名で己を呼び慣らし
「生きる術」とは見上げた根性よ
１００歩先まで読みすかし
その先見性には全くのところ恐れ入る
己を押し潰すことさえいとわぬとは！

春の息吹が最初に訪れる時
僕は耳を澄ますだろう

ただ己を香りの中(うち)に溺れさせる為だけに・・・

全ゆる事実を是認するのみの寛容なら
酔いしれるがいい
このなま温かい淀みの中に！

感応にも等しかったあの大気は冷えきり
ただ、物質としての
存在としての物質が浮遊する
ああ、今ここに平坦さ以外の何があろう！
壁はいたる所で取り払われるが
生活と感情とは互いに隔離されるばかりだ

若者は手足を伸ばすためにカリスマの庇護を求め
中年共は己の築き上げたものから疑念を拭き取ることにやっきとなり
しょぼくれた老人達は水気のなくなった生命を持て余す
ああ、いっそ消え去るがいい
幸福も悲劇もない単調さの中へ！
平面の中に描かれた痕跡として・・・

(1990.2.20)